

令和元年度

事業報告書

(自) 平成31年 4月 1日

(至) 令和 2年 3月31日

〒452-0962

愛知県清須市春日新町9-5番地

社会福祉法人西春日井福祉会

理事長 今村 達雄

令和元年度西春日井福祉会本部事業報告書

1 法人運営に関する会議の開催

- (1) 理事会 7回（開催6回、書面決議1回）理事長の選出、規則規程の改正、事業報告及び決算報告、事業計画及び収支予算、補正予算、施設整備及び契約に関する事項等
- (2) 評議員会 3回（定時開催1回、臨時開催2回）理事の選任、監事の選任、定款の改正、事業報告及び決算報告、事業計画及び収支予算、施設整備に関する事項等
- (3) 指名審査委員会 4回（特別部会2回、通常部会2回）施設整備及び契約に関する事項等
- (4) 施設長会議
 - ① 定例会 12回（月次状況確認、法人統一事項確認、事業運営における情報共有等）
 - ② 検討会 11回（人財確保策、技能実習生受入、経営分析結果、業務改善提案の審議等）
 - ③ 臨時会 2回（職員処遇改善施策、消費税改正に伴う検討事項）
 - ④ 新型コロナウイルス対策会議 6回（法人としての対応策協議、衛生材料の施設間調整等）
- (5) 人事委員会 5回（職員表彰者の選定、職員勤務評定結果の報告、人事案件）
- (6) 法人運営の適正に向けた会議の開催
 - ① 運営適正化委員会 12回（各業務内容の適正化、職種別役割分担の明確化等）
 - ② 法人の会議・委員会 133回（事務系会議、職種別会議、新型コロナウイルス関連会議等）

2 職員の雇用状況

- (1) 職員総数 650名（正規380名、嘱託43名、パート221名、技能実習生6名）
- (2) 採用 60名（正規33名、嘱託2名、パート25名）
 - ① 募集活動（問合せ・面談数268名、施設見学者91名、正規職員受験者42名）
 - ② 募集方法（学校1,285校、紹介所4箇所、就職フェア25回、ホームページ、インターネット求人等）
- (3) 退職 66名（正規34名、嘱託8名、パート24名）

3 人事異動

- (1) 昇任等 31名（課長補佐級1名、係長級7名、主任等任命20名、解任3名）
- (2) その他 57名（身分換15名、配置換24名、育休復帰9名、再任用7名等）

4 職員処遇の充実

- (1) 昇給等 353名（正規302名、嘱託4名、パート47名）
- (2) 手当の創設 介護職員等特定処遇改善加算に伴う特定処遇調整手当の創設
- (3) 職員表彰 60名（20年勤続4名、10年勤続29名、ブログ賞24名、業務提案3名）
- (4) 福利厚生 11種（リフレッシュ事業、自己啓発事業、健康増進に係る事業、職員給与積立事業、団体保険事業、職員親睦旅行、野球チーム等）

5 法人としての職員育成

- (1) 一般職員研修 9回 延364名（人間力研修、有意義な会議開催方法研修、救命講習等）
- (2) 階層別研修 26回 延384名（新人職員、チューター職員、リーダー職員、管理者等）
- (3) 専門職員研修 21回 延172名（専門的スキルを学ぶ基礎研修や職種別研修等）

6 組織統治及び内部統制の充実

- (1) 理事長報告会の実施
 - ① 事業実績報告 2回（2日間）
 - ② 事業計画予算報告 1回（1日間）
- (2) 監事による監査及び検査の実施
 - ① 現金出納監査 6回（偶数月）現金預金の変動及び残高、利用者預り金の高額取引確認
 - ② その他監査 決算監査 1回（2日間） 中間監査 1回（2日間）
- (3) 会計監査人による監査の実施
 - ① 月例監査 10回（4月、5月、10月から毎月実施）
 - ② 決算監査 1回（3日間）
- (4) 法人内部による施設実施状況の監査
 - ① 施設及び事業所の運営状況等確認 7項目（44日間）
 - ② 労務監査 1回（3日間）

7 その他の活動

- (1) 地域貢献活動 外部への出張講師等 13件
- (2) 広報活動 福祉会だよりの発行 4回（5月、8月、11月、2月）
- (3) 外国人技能実習生受入れ関連の活動
ホール出張5回（延20名）、実習生受入6名、社宅等生活環境準備、研修教育、会議開催等
- (4) 施設整備事業関連の活動（仮称）第6特別養護老人ホーム、障害者日中サービス支援型グループホーム

令和元年度特別養護老人ホーム五条の里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員80名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 79.5名（前年度 79.3名）
 - (2) 稼働率 99.3%（前年度 99.1%）
 - (3) 平均介護度 3.92（前年度 3.87）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 43回（夏祭り、介護の日、春のお茶会等）
 - (2) 外出支援 21回（喫茶外出、犬山城、大須観音等）
 - (3) 食事関係 30回（バイキング、ゴールデンランチ）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 53回 延べ人数74名
 - (2) 内部研修 14回（事故防止、身体拘束廃止、感染症予防等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 154回（フロア会議、業務改善会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 5回（臨時感染会議、臨時事故対策会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 担当者会議では、家族と多職種の職員が出席し、入所者の情報共有と共通理解を深めて、個別ニーズに合わせたケアプランを作成しました。また、看取り期の入所者が最期の時まで安心して過ごしてもらえるように情報シートを活用して、よりよい看取りケアを実践しました。
 - (2) 入所者の身体状況を考慮した、体位交換用クッションや車イス用座クッション、介護用靴等を活用し、残存機能を生かした自立支援に努めました。
 - (3) 感染症予防について、換気及び消毒方法等、感染症予防委員会で決定した事項を職員へ周知することによって、職員の意識向上につながり、季節毎の感染症を防ぐことができました。
 - (4) 外部研修の報告を研修報告会として発表する場を設けるとともに、各フロアにて介護関連の知識や技術を習得できるミニ研修を開催し、職員のスキルアップに努めました。
 - (5) ミールラウンドの実施について、入所者の食事形態や食事時の姿勢を多職種で確認しながら、安心した食事を提供できるように努めました。また、栄養マネジメント計画の実施においても、体重の増減確認、食事形態、食事摂取量の状況等を適切に確認及び評価しました。
 - (6) 久屋大通公園や犬山城へのバスハイクについて、参加した入所者や家族が街並みや花を楽しみながら、有意義な時間を過ごしてもらうことができ、積極的な交流を図りました。
 - (7) 入所者の入退所時について、適切に対応することによって、家族と信頼関係の構築を図りました。また、退院時では、病院のソーシャルワーカー及び退院援助看護師等と調整を図り、退院カンファレンスに出席して、医療機関から円滑な退院を進めることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域に根差した施設として、地域住民やボランティア、各学校の協力を得て、夏祭り、介護の日、お茶会等を開催しました。また、ピアノ演奏会や高校生等の新規ボランティアを受け入れて活動支援をすることができました。
 - (2) 外国人の介護福祉士実習生の受け入れや管理栄養士実習生、社会福祉職場体験等の受け入れを積極的に行い、地域の福祉教育に貢献できるよう努めました。
 - (3) 入所者の日々の生活の様子をフェイスブック等で情報発信しました。また、事業所毎の様子をより具体的に説明できるように施設パンフレットを更新して、施設への理解を深めていただいています。
 - (4) 行政からの虐待による緊急保護が必要である高齢者について、迅速に多職種と連携を図り保護することができました。なお、緊急保護者は次の高齢者施設が無事に決定され、入所につながっています。

令和元年度特別養護老人ホーム五条の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 19.3名（前年度 19.0名）
 - (2) 稼働率 96.7%（前年度 94.9%）
 - (3) 平均介護度 2.92（前年度 2.97）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 43回（夏祭り、介護の日、春のお茶会等）
 - (2) 食事関係 30回（バイキング、ゴールデンランチ）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 53回 延べ人数74名
 - (2) 内部研修 14回（事故防止、身体拘束廃止、感染症予防等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 154回（フロア会議、業務改善会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 5回（臨時感染会議、臨時事故対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新規利用者の担当者会議には、相談員、看護師、介護員が同行し、利用者及び家族の希望や心身機能の状態をそれぞれの専門職の目線で確認し、良質なサービス提供に結び付けることができました。
 - (2) 利用者の身体状況を考慮した、体位交換用クッションや車イス用座クッション、介護用靴等を活用し、残存機能を生かした自立支援に努めました。
 - (3) 感染症予防について、換気及び消毒方法等、感染症予防委員会で決定した事項を職員へ周知することによって、職員の意識向上につながり、季節毎の感染症を防ぐことができました。
 - (4) 外部研修の報告を研修報告会として発表する場を設けるとともに、各フロアにて介護関連の知識や技術を習得できるミニ研修を開催し、職員のスキルアップに努めました。
 - (5) バイキングでは、天ぷらや焼きガニ等、季節の食材を使用することで、利用者には季節感を味わっていただき、充実した食事サービスの提供に努めることができました。
 - (6) 久屋大通公園や犬山城へのバスハイクについて、参加した入所者や家族が街並みや花を楽しまれながら、有意義な時間を過ごしてもらうことができ、積極的な交流を図りました。
 - (7) 医療機関や居宅支援事業所と連携及び調整を図り、利用者や家族の希望に沿った利用ができるよう努めました。在宅生活を確保したうえでの受け入れを実施することにより、安定したリピーター確保に繋げることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域に根差した施設として、地域住民やボランティア、各学校の協力を得て、夏祭り、介護の日、お茶会等を開催しました。また、ピアノ演奏会や高校生等の新規ボランティアを受け入れて活動支援をすることができました。
 - (2) 外国人の介護福祉士実習生の受け入れや管理栄養士実習生、社会福祉職場体験等の受け入れを積極的に行い、地域の福祉教育に貢献できるよう努めました。
 - (3) 利用者日々の生活の様子をフェイスブック等で情報発信しました。また、事業所毎の様子をより具体的に説明できるように施設パンフレットを更新して、施設への理解を深めています。
 - (4) 行政からの虐待による一時的な緊急保護の依頼を受けて、迅速に多職種と連携を図って利用につなげることができました。なお、保護を受けた緊急保護者は次の高齢者施設が無事に決定され、入所につながっています。

令和元年度デイサービスセンター五条の里通所介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 25.9名（前年度 26.6名）
 - (2) 稼働率 86.4%（前年度 88.8%）
 - (3) 平均介護度 2.23（前年度 2.24）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 117回（おもてなしカフェ、文化祭、デイ夏祭り等）
 - (2) 食事関係 35回（バイキング、鉄板料理、ゴールデンランチ等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 12回 延べ人数12名
 - (2) 内部研修 11回（感染症予防、事故防止、身体拘束廃止等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 124回（業務改善会議、デイ会議、感染症予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 4回（緊急感染会議、利用者対応、来年度の事業運営等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 利用者の家族を招待した「おもてなしカフェ」を開催して、利用者一人ひとりに喫茶店員の役割を持つよう働きかけて、達成感を味わっていただきました。また、「おもてなしカフェ」を通じて家族へ日頃の感謝の気持ちを伝える機会を設けることができました。
 - (2) 利用者個々の身体状況に合わせた機能訓練プログラムの検討及び計画を行うとともに、日常生活動作のレベルに応じた少人数グループで実施したことにより、それぞれの利用者の意欲向上につながり、身体機能の維持向上に努めることができました。
 - (3) 安心安全な送迎サービスを提供するため、運転手、添乗員が声を掛け合い事故の発生防止に努めました。また、新たに「かもしれない運転」の定義と必要性を注意喚起することにより、安全運転の意識向上に努めました。
 - (4) 利用者の体調管理においては、体調の変化を早期発見し、病院受診を依頼する対応をした結果、感染拡大を防ぐことができました。また、新型コロナウイルス対策としての送迎前からの体温測定、換気等、感染予防対策に努めました。
 - (5) 中重度者ケアや認知症ケア、感染症予防対策の研修に積極的に参加することができ、学んだ知識は各職種に向けて、デイ会議や申し送りの場面等で情報発信するように努めました。
 - (6) 利用者の目の前で調理する鉄板調理、旬の食材を活かしたゴールデンランチ及び四季のメニューが豊富なバイキングを実施することで、楽しみと喜びのある食事サービスを提供することができました。
 - (7) 家族支援の取組みとして、利用者の些細な状態変化や在宅支援の適切なアドバイスを行って信頼を得ることができました。また、おためし利用後には、利用中の様子について、写真等を使用した情報提供を行い、新規利用の獲得に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域に根差した施設として、地域住民やボランティア、各学校の協力を得て、夏祭り、介護の日、お茶会等を開催しました。また、ピアノ演奏会や高校生等の新規ボランティアを受け入れて活動支援をすることができました。
 - (2) 外国人の介護福祉士実習生の受け入れや管理栄養士実習生、社会福祉職場体験等の受け入れを積極的に行い、地域の福祉教育に貢献できるよう努めました。
 - (3) 利用者の日々の生活の様子をフェイスブック等で情報発信しました。また、事業所毎の様子をより具体的に説明できるように施設パンフレットの更新をして、施設への理解を深めていただいています。
 - (4) 虐待事例から利用に至った利用者について、行政や関係機関と在宅状況を確認しながら継続利用することにより、利用者の安心、安全な環境を整え、介護者側にも介護負担の軽減を図ってもらうことができました。

令和元年度特別養護老人ホームあいせの里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員80名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 79.1名（前年度 79.1名）
 - (2) 稼働率 98.8%（前年度 98.9%）
 - (3) 平均介護度 3.96（前年度 3.91）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 40回（お茶会、スイカ割り、運動会等）
 - (2) 外出支援 6回（花見、ショッピング、昼食外出）
 - (3) 食事関係 36回（バイキング、ビアガーデン、もちつき大会等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 59回 延べ人数106名
 - (2) 内部研修 10回（リスクマネジメント、看取り介護、喀痰吸引等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 173回（事故防止委員会、身体拘束廃止委員会、衛生会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（感染対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) ユニット毎に開催した家族会や、日頃の意向調査により、入所者、家族本位のケアプランを作成しました。中でも看取りの入所者に対し、多職種協働で実施した外食企画では、本人や家族に大変喜んでいただくことができました。
 - (2) 花見外出、セルフ祭り等の地域への外出行事や、お茶会、ビアガーデンといった施設内行事等、日常生活におけるさまざまなレクリエーションを計画的に実施し、メリハリのある生活を送っていただけるよう支援しました。
 - (3) 食を通じて日常生活の中にも楽しみを持っていただけるよう、敬老祝い膳や屋外バーベキュー等普段とは違う食事環境を演出しました。また、定期的にミールラウンドを実施し、嚥下機能の低下がみられる入所者への安全な食事支援に努めました。
 - (4) 入所者の生活環境、支援内容等について、各種会議、委員会で適宜見直しを行いました。また、内部研修の計画的な実施、外部研修への積極的な参加により、各職員の資質向上につながりました。
 - (5) 入所選考委員会での決定をもとに、待機者の中から要介護度が重度の方や生活困窮者を優先的に受け入れることで、セーフティネットである施設の役割を果たしました。
 - (6) 感染予防に関する施設内研修の開催や、定例、臨時の感染対策委員会を実施し、感染症発生防止につなげました。また、各防護用品の備蓄に努め、感染症が発生した際の感染拡大防止に備えました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域住民からの介護相談等を目的とした福祉カフェめだかや、在宅で介護している家族のサポートを目的とした、ほっとひといきりフレッシュを行政と協働で開催する等、地域福祉の推進につなげました。
 - (2) 開かれた施設づくりの為、20周年記念祭や夏祭り等の大規模行事を盛大に開催し、地域住民が施設に足を運ぶきっかけとなりました。また、介護の日のイベントでは、認知症の対応をテーマに啓発劇を行い、介護についての理解を深めていただく事ができました。
 - (3) 介護福祉士、管理栄養士等、各種実習生の積極的な受入れや、近隣小学校向けに福祉教室を開催する等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
 - (4) 施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックを通じて発信するとともに、レクリエーションで作った利用者の作品や、地域住民からの心のこもった寄贈品を館内のいたる所に展示する事で、温かみのある施設作りに努めました。
 - (5) 防災に関する勉強会や、地元消防団と協働で災害時に備えた消火訓練、避難訓練を計画的に実施し、防災体制の強化に努めました。

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 18.7名 | （前年度 19.2名） |
| (2) 稼働率 | 93.5% | （前年度 96.1%） |
| (3) 平均介護度 | 2.95 | （前年度 2.94） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 行事関係 | 40回 | （お茶会、スイカ割り、運動会等） |
| (2) 食事関係 | 36回 | （バイキング、ビアガーデン、もちつき大会等） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 外部研修 | 59回 | 延べ人数106名 |
| (2) 内部研修 | 10回 | （リスクマネジメント、看取り介護、喀痰吸引等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 173回 | （事故防止委員会、身体拘束廃止委員会、衛生委員会等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 2回 | （感染対策委員会） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) ショートステイ委員会を毎月開催し、サービス担当者会議で得た利用者の希望や心身状況等の情報の周知、処遇内容のモニタリング等を行い、各利用者へのより良いサービス提供につなげました。
- (2) 利用中の生活が有意義なものになるよう、地域各所に出掛けての屋外リハビリテーションやお茶会、ビアガーデン等、バリエーションに富んだ施設内行事を企画し、楽しんでいただく事ができました。
- (3) 食を通じて日常生活の中に楽しみを持っていただけるよう、敬老祝い膳や屋外バーベキュー等普段とは違う食事環境を演出しました。また、定期的にミールラウンドを実施し、嚥下機能の低下がみられる利用者への安全な食事支援に努めました。
- (4) 利用者の生活環境、支援内容等について、各種会議、委員会で適宜見直しを行いました。また、内部研修の計画的な実施、外部研修への積極的な参加により、各職員の資質向上につなげました。
- (5) 居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等、関係機関との連絡を密にし、稼働率の向上に努めました。また、医療依存度の高い利用者や、緊急的に保護が必要な利用者を積極的に受け入れる事で、稼働率の向上につなげました。
- (6) 感染予防に関する施設内研修の開催や、定例、臨時の感染対策委員会を実施し、感染症発生防止につなげました。また、各防護用品の備蓄に努め、感染症が発生した際の感染拡大防止に備えました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域住民からの介護相談等を目的とした福祉カフェめだかや、在宅で介護している家族のサポートを目的とした、ほっとひといきりフレッシュを行政と協働で開催する等、地域福祉の推進につなげました。
- (2) 開かれた施設づくりの為、20周年記念祭や夏祭り等の大規模行事を盛大に開催し、地域住民が施設に足を運ぶきっかけとなりました。また、介護の日のイベントでは、認知症の対応をテーマに啓発劇を行い、介護についての理解を深めていただく事ができました。
- (3) 介護福祉士、管理栄養士等、各種実習生の積極的な受入れや、近隣小学校向けに福祉教室を開催する等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
- (4) 施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックを通じて発信するとともに、レクリエーションで作った利用者の作品や、地域住民からの心のこもった寄贈品を館内のいたる所に展示する事で、温かみのある施設作りに努めました。
- (5) 防災に関する勉強会や、地元消防団と協働で災害時に備えた消火訓練、避難訓練を計画的に実施し、防災体制の強化に努めました。

令和元年度老人デイサービスセンターあいせの里事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 25.8名（前年度 28.0名）
 - (2) 稼働率 86.0%（前年度 93.4%）
 - (3) 平均介護度 2.23（前年度 2.22）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 70回（秋祭り、謝恩会、実演調理ショー等）
 - (2) 食事関係 24回（季節御膳弁当、バイキング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 7回 延べ人数7名
 - (2) 内部研修 7回（リーダー研修、認知症対応、感染予防等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 70回（デイサービス会議、リーダー会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（感染対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 音楽療法、回想療法、創作活動等において、利用者が意欲的に取り組めるようバリエーションに富んだプログラムを準備し、個々に応じたレクリエーションを実践する事で、利用者の活動意欲の向上を図りました。
 - (2) ヒヤリハットの集計結果を基に、各介護事故事例を分析して対策を見出す事で、再発防止に努めました。また、送迎経路表について、危険な箇所があれば随時見直しを行い、情報を共有する事で安心・安全な送迎サービスを実施しました。
 - (3) 残存機能、在宅の環境に合わせた個別リハビリテーションの計画的な実施や、口腔機能を維持する為の適切なケア方法の啓発等、身体機能の維持、向上につなげました。
 - (4) 利用者の要望を取り入れたバイキングや、旬の食材を活かした季節の弁当等、見た目からも楽しめるメニューを提供しました。また、個々の嚥下機能に合わせる事で、美味しく安全な食事サービスが提供できました。
 - (5) 毎月のデイ会議で、利用者の希望や心身の状況を踏まえた処遇内容について意見交換を行い全員が共通認識を持つ事で、サービスの標準化を図りました。また、感染症対策の周知、認知症についての勉強会を行い、職員の資質向上を図りました。
 - (6) 居宅介護支援事業所をこまめに訪問し、利用中の様子や、相談、提案事項を報告する等、信頼関係の構築に努めました。また、各関係機関が当事業所の魅力を紹介しやすくなるように料金表や特色等をまとめた冊子を作成し、関係機関に活用していただく事で新規利用者の獲得に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域住民からの介護相談等を目的とした福祉カフェめだかや、在宅で介護している家族のサポートを目的とした、ほっとひといきリフレッシュを行政と協働で開催する等、地域福祉の推進につなげました。
 - (2) 開かれた施設づくりの為、20周年記念祭や夏祭り等の大規模行事を盛大に開催し、地域住民が施設に足を運ぶきっかけとなりました。また、介護の日のイベントでは、認知症の対応をテーマに啓発劇を行い、介護についての理解を深めていただく事ができました。
 - (3) 介護福祉士、管理栄養士等、各種実習生の積極的な受入れや、近隣小学校向けに福祉教室を開催する等、次世代を担う福祉人材の育成に努めました。
 - (4) 施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックを通じて発信するとともに、レクリエーションで作った利用者の作品や、地域住民からの心のこもった寄贈品を館内のいたる所に展示する事で、温かみのある施設作りに努めました。
 - (5) 防災に関する勉強会や、地元消防団と協働で災害時に備えた消火訓練、避難訓練を計画的に実施し、防災体制の強化に努めました。

令和元年度ケアハウスあいせの里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 28.9名（前年度 28.5名）
 - (2) 稼働率 96.4%（前年度 95.1%）
 - (3) 要介護者数 14名（前年度 12名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 117回（ビアガーデン、お茶会、もちつき大会等）
 - (2) 外出支援 42回（ショッピング、喫茶外出、地域行事外出等）
 - (3) 食事関係 28回（バイキング、モーニング、敬老祝膳等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 3回 延べ人数3名
 - (2) 内部研修 6回（感染症予防、自然排泄、リーダー研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 41回（運営連絡会議、衛生委員会、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（感染対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 各入所者の希望や必要な支援に応じて、傾聴ボランティア等の地域資源や福祉用具、訪問介護等、介護サービスの内容を調整し、入所者が健康的で自立した生活を送る事ができるよう支援しました。
 - (2) 地域各所への外出企画や施設内における各クラブ活動の実施等、入所者がメリハリのある生活を送る事ができるよう支援しました。また、出張売店等の地域資源の活用により、地域社会とのつながり作りに努めました。
 - (3) 日々の見守りや体調確認、健康相談を実施し、入所者の健康管理に努めました。また、入所者の体調不良時には、介護サービス事業所や医療関係者と連絡を密にし、迅速に対応する事で入所者の病変の早期発見に努めました。
 - (4) 食事を楽しんでいただけるよう、季節の御膳やバイキング等旬の食材を使用したメニューを提供しました。また、個々に合わせた食事形態で提供する事で、安全な食事支援に努めました。
 - (5) 入所者の身体機能維持向上のため、歯科衛生士による口腔ケア指導や体操クラブ、健康教室等の実施により、認知症予防や健康的な生活を支援しました。
 - (6) 災害時を想定した入所者の安全確保について、避難経路や各居室の定期点検、防災訓練等を実施しました。また、入所者に対して、日頃から手洗い、うがいの実施等、スタンダードプリコーションを周知し、感染症予防についての知識と意識づけを行いました。
 - (7) 施設見学者、居宅介護支援事業所等に対し、自立につながる外出支援、健康維持に関する支援等、事業所の特色をアピールする事で、入所申込者の確保に努めました。また、入所待機者の身体状況や意向を定期的に調査し、常に現状を把握しておくことで円滑な入所に備えました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域住民からの介護相談等を目的とした福祉カフェめだかや、在宅で介護している家族のサポートを目的とした、ほっとひといきりフレッシュを行政と協働で開催する等、地域福祉の推進につなげました。
 - (2) 開かれた施設づくりの為、20周年記念祭や夏祭り等の大規模行事を盛大に開催し、地域住民が施設に足を運ぶきっかけとなりました。また、介護の日のイベントでは、認知症の対応をテーマに啓発劇を行い、介護についての理解を深めていただく事ができました。
 - (3) 施設内行事の様子を、福祉会だよりやフェイスブックを通じて発信するとともに、レクリエーションで作った利用者の作品や、地域住民からの心のこもった寄贈品を館内のいたる所に展示する事で、温かみのある施設作りに努めました。
 - (4) 防災に関する勉強会や、地元消防団と協働で災害時に備えた消火訓練、避難訓練を計画的に実施し、防災体制の強化に努めました。

令和元年度特別養護老人ホームペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員100名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 98.6名（前年度 98.4名）
 - (2) 稼働率 98.6%（前年度 98.4%）
 - (3) 平均介護度 3.97（前年度 3.99）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 35回（運動会、秋祭り、餅つき等）
 - (2) 外出支援 4回（野球観戦、ショッピング、美術館等）
 - (3) 食事関係 28回（バイキング、モーニング、おやつ作り等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 34回 延べ人数68名
 - (2) 内部研修 12回（介護技術、終末期ケア、スーパービジョン等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 152回（調整会議、事故防止委員会、感染症予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（感染対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 生きがいのある自分らしい暮らしを実現するために、アセスメント時には多職種が連携し情報収集を行い、より細かい本人の状況把握に努めることができました。また、集めた情報をケアプランに反映し、個々のニーズに合ったケアを提供することができました。
 - (2) 外出行事では、かつて暮らしていた思い出深い場所に案内し、昔を思い出して楽しんでいただいたり、大須観音や近くのショッピングセンター、また地域の美術館等へ出掛け気分転換に努めることができました。
 - (3) 入所者に安心して安全に過ごしていただくため、職員一人ひとりにリフト研修を行い、使用方法についての再確認と周知徹底をすることができました。
 - (4) 施設内で感染症等が疑われた場合には、すぐに多職種を交えた緊急感染会議を行い、初期対応に素早く取り組み、蔓延拡大を最小限に食い止めることができました。
 - (5) 経年劣化により給湯設備に支障が生じたため、給湯管の全面取替工事を行い、安心安全なライフラインを確保することができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 夏に開催していた祭りを、入所者の体調面を考え、気候の良い秋に変更し開催しました。また、祭りの催事内容も一から見直し、入所者だけでなく、ボランティア、地域の方々も参加し楽しめる抽選会や、地元の高校ブラスバンド部による大合唱等を行うことができました。
 - (2) 介護の日では地域で暮らす認知症の方々の支援をテーマとし、清須市認知症初期支援チームによる講話や、最新の介護技術や用品の紹介等を行い、地域における介護に対する理解促進に努めることができました。
 - (3) 施設で開催する行事を多くの方々に知っていただくため、その行事ごとにフェイスブック記載担当者をあらかじめ決めておくことで、行事終了後速やかにフェイスブックにアップする環境を整えました。
 - (4) 地元消防団と協働し、昼間の火災を想定した訓練を行うことで、避難経路や避難方法について新たな課題を見つけることができ、災害時の備えにつなげることができました。

令和元年度ペガサス春日短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員10名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 9.9名（前年度 9.1名）
 - (2) 稼働率 99.5%（前年度 90.5%）
 - (3) 平均介護度 2.69（前年度 2.79）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 35回（運動会、秋祭り、餅つき等）
 - (2) 食事関係 28回（バイキング、モーニング、おやつ作り等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 34回 延べ人数68名
 - (2) 内部研修 12回（介護技術、終末期ケア、スーパービジョン等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 152回（調整会議、事故防止委員会、感染症予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（感染対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 利用者の在宅での生活状況や家族の悩み等を把握するため、初回担当者会議には多職種が参加し多方面から情報把握に努め、個々のニーズに合った良質なサービスの提供に努めることができました。
 - (2) 作品作りでは、機能訓練の一環としてだけでなく、季節の移り変わりが感じられるものを作製することで、作品作りを通じて四季の変化を感じていただけるように努めました。
 - (3) 利用者に安心して安全に過ごしていただくため、職員一人ひとりにリフト研修を行い、使用方法についての再確認と周知徹底に取り組むことができました。
 - (4) 地域包括支援センターや市との連携強化を図り、地域に住んでいる方々を緊急で保護する必要がある時には積極的に受け入れ、福祉施設としての役割を果たすことができました。
 - (5) 経年劣化により給湯設備に支障が生じたため、給湯管の全面取替工事を行い、安心安全なライフラインを確保することができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 夏に開催していた祭りを、利用者の体調面を考え、気候の良い秋に変更し開催することができました。また、祭りの催事内容も一から見直し、利用者だけでなく、ボランティア、地域の皆様も参加し楽しめる抽選会や、地元の高校ブラスバンド部による大合唱などを行うことができました。
 - (2) 介護の日では地域で暮らす認知症の方々の支援についてをテーマとし、清須市認知症初期支援チームによる講話や、最新の介護技術や用品の紹介等を行い、地域における介護に対する理解促進に努めることができました。
 - (3) 施設で開催する行事を多くの方々に知っていただくため、その行事ごとにフェイスブック記載担当者をあらかじめ決めておくことで、行事終了後速やかにフェイスブックにアップする環境を整えました。
 - (4) 地元消防団と協働し、昼間の火災を想定した訓練を行うことで、避難経路や避難方法について新たな課題を見つけることができ、災害時の備えにつなげることができました。

令和元年度老人デイサービスセンターペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 27.7名（前年度 26.6名）
 - (2) 稼働率 92.3%（前年度 88.7%）
 - (3) 平均介護度 2.07（前年度 2.11）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 95回（法人合同行事、デイサービス夏祭り、新春祭等）
 - (2) 食事関係 17回（バイキング、季節御膳、舟盛フェア等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 8回 延べ人数8名
 - (2) 内部研修 20回（吐物処理演習、認知症ケア、無断外出対応等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 66回（調整会議、デイサービス会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（緊急感染対策会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新規や更新に伴う担当者会議にて、利用の意向や生活環境を確認し、通所介護計画書に反映させることができました。新たな活動として個別レクリエーションでは手芸クラブや難易度別木製パズル活動を取り入れ、選択の幅を広げることができました。また、機能訓練では屋外を意識した段差のあるステップアップ平行棒を取り入れ、より効果的な働きかけができました。
 - (2) 食事に集中する環境を整えるため、食事前に口腔・嚥下体操を実施し、食事中はBGMを流してリラックスできる雰囲気演出する等工夫を凝らすことができました。また、口腔ケアを徹底することにより、口腔内の状況を把握することができました。嚥下機能に変化のある利用者に対しては家族及びケアマネに相談して、より安全な食事が提供できるよう状態によって随時食事形態を見直すことができました。
 - (3) 利用者が快適な空間で過ごせるよう、日頃から使用場所及び物品の定期点検等の環境整備に努めることができました。トイレには収納棚を設置し、物品が清潔かつ安全に使用できるようになりました。さらに、会議内において利用者の対応方法について検討を行うことにより、職員間での情報共有を図ることができ、統一したサービス提供ができました。
 - (4) 利用者の様々なニーズに対して柔軟に対応したり、利用者の些細な変化に対して写真や書面を活用した迅速且つ的確な報告及び必要なケアの提案を行うことにより、居宅介護支援事業所とのさらなる信頼関係の構築に努めることができました。また、事業所規模に適した受け入れや取得加算の要件確認については毎月の管理を行い、適正な施設運営を行うことができました。
 - (5) 感染症対策実践のため、看護師が講師となり吐物処理演習を行い、手順や使用物品等の復習を通してマニュアルに沿った正しい対応ができるよう確認しました。また、風邪症状やその他感染症の疑いが生じた利用者に対しては早めの受診を勧め、集団生活の場でサービス利用していただく理解を深めていただくよう臨機応変に連携することができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 催しのボランティアの他、食事イベントや機能訓練を兼ねた外出支援実施の際にはボランティアにも参加していただき、地域交流の活性に努めることができました。また、社協事業の一つである麻雀サロンの会場として当施設を提案し、社会福祉施設としての役割を担い、地域住民との関わりを深める機会を新たに設けることができました。
 - (2) 月刊パンフレット、フェイスブック、イベントチラシを積極的に活用し、様々な行事情報や施設全体の取り組みを紹介することにより、利用者家族、地域住民、居宅介護支援事業所等に情報発信することができました。
 - (3) 災害に備えた想定訓練を地元消防団と協働し、避難訓練、放水訓練の実施及び非常用小型蓄電池の説明等の災害備蓄物資の確認を行いました。避難時に危険箇所がないよう日頃から整理整頓や動線確保を意識した環境整備を行うことができました。

令和元年度グループホームペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員9名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 8.9名（前年度 9.0名）
 - (2) 稼働率 98.4%（前年度 99.8%）
 - (3) 平均介護度 1.71（前年度 1.50）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 20回（合同文化祭、歌謡ショー、家族交流会等）
 - (2) 外出支援 7回（清洲城外出、喫茶外出、いちご狩り等）
 - (3) 食事関係 3回（花見弁当、焼き芋会、ひな祭り食）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 7回 延べ人数7名
 - (2) 内部研修 3回（衛生講習会、腰痛予防、事業説明会）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 60回（調整会議、衛生委員会、感染症予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（緊急感染予防会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者個々の能力に応じて、在宅生活と同様の炊事や清掃等を職員とともに行うことで、家庭的な生活を実感していただきました。また、入所時や面会時等での家族の要望等を受けてホーム会議で話し合い、サービスの向上に努めました。
 - (2) いちご狩り、焼き芋会、桜、梅の花見外出等を実施し、五感で季節を感じていただくことができました。また、家族交流会を開催し家族団らんの時間を過ごしていただきました。自宅近所の知人の訪問や地域の清掃活動への参加等、地域社会と継続的に関わりを持つことができました。
 - (3) 入所者が快適に生活できるように雑誌などの書籍を配置しました。行事の際の写真を室内に掲示し会話の話題を作りました。また、入所者と共に日中の居室清掃を行ったり、職員で共有エリアの清掃・消毒に努め、清潔感のある生活スペースが確保できました。
 - (4) 施設外研修や施設内勉強会に参加して、職員の資質向上に努めることができました。また、研修で学んだ内容については、会議等で情報共有できるよう努めることができました。
 - (5) 各部署と連携し感染症委員会等での意見交換を活発に行うとともに、マニュアルの見直しを行い施設全体での感染症対策に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 教員の福祉体験、教員免許介護実習を受け入れ、認知症介護の現状を体験して理解を深めていただきました。また、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れを行いました。
 - (2) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、日々の活動の様子を紹介することにより、家族や地域の方々に事業活動を周知し、理解を深めていただけるよう努めることができました。また、日々の生活の様子を紹介した「かわら版」を毎月発行して、地域に掲示するとともに、家族には入所者個々の活動を伝えました。
 - (3) 運営推進会議を定期的開催し、事業活動の説明、率直な意見交換の他、入所者とともに昼食、おやつを試食していただく機会を設けました。
 - (4) 地元消防団と協働し避難訓練を行うことで、災害時の誘導、手順の確認ができました。

令和元年度けあはうすぺがサス春日事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 29.5名（前年度 28.8名）
 - (2) 稼働率 98.3%（前年度 95.9%）
 - (3) 要介護者数 6名（前年度 7名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 103回（運動会、秋祭り、もちつき等）
 - (2) 外出支援 47回（ショッピング、昼食外出、季節を感じられる外出等）
 - (3) 食事関係 32回（モーニング、バイキング、鍋の日等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 5回 延べ人数5名
 - (2) 内部研修 5回（施設内研修、法人内研修）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 73回（調整会議、けあはうす会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（緊急感染症対策会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者個々が穏やかで安心した自立生活を送ることができるよう本人や家族と相談しながら、心身の状態や生活環境に寄り添った福祉サービスの利用について、他の事業所と連携をとることができました。
 - (2) ショッピング等の定期的な外出の他、毎年恒例の桜見物、紫陽花見物、初詣など季節を感じられる外出行事を行うことができました。また、地元の管弦楽団演奏会や一宮の七夕まつり等に出かけることができ、地域の方々と交流することができました。
新たな試みとして秋祭りを実施し、多くのボランティアとの交流をはじめ、家族との関わりも大切にすることができました。
 - (3) 安心して快適な生活が送れるよう、給湯管の整備を行うことができました。
福祉サービスを適切に実施することができるよう、施設内外の研修に参加することができました。
 - (4) 入所希望者の確保のため、地域包括支援センターをはじめ他の事業所と連携をとることができました。また、可能な限り多くの方が利用できるよう円滑な入退所に努めることができました。
 - (5) フロア内においては、毎日の換気、消毒をはじめ、入所者への感染予防に対する啓発活動を行うことができました。感染予防や発症時の初期対応方法について、感染症委員会や実演に参加することにより感染症対策の実践に努めることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 福祉カフェでは、ボランティアの協力のもと定期的を開催することができました。介護の日では、外部講師を招き、市の認知症サポート体制について多くの地域住民に情報提供することができました。
小中学校で行われる福祉実践教室では認知症理解について、また地域で行われるサロンでは介護予防等について各講師を務め、福祉教育の推進に努めることができました。
 - (2) 福祉会だよりやフェイスブックなどの広報媒体を活用して、日頃の入所者の様子や活動内容について、入所者家族や地域住民に理解を深めていただけるよう努めることができました。
 - (3) 災害に備え、防災訓練を実施することができました。地元消防団と協働し実践をまじえての訓練では、入所者とともに参加することができ、防災意識の向上につなげることができました。

令和元年度特別養護老人ホーム清洲の里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員80名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 78.7名（前年度 79.1名）
 - (2) 稼働率 98.3%（前年度 98.9%）
 - (3) 平均介護度 3.95（前年度 3.92）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 52回（お祭り、家族交流会、運動会等）
 - (2) 外出支援 23回（桜の花見、初詣、ショッピング等）
 - (3) 食事関係 23回（ランチ会、バイキング、出張寿司等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 53回 延べ人数92名
 - (2) 内部研修 14回（感染症予防、看取りケア、認知症ケア等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 119回（感染対策委員会、リーダー会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 4回（臨時感染対策会議、臨時ケース検討会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 日頃から入所者及び家族とコミュニケーションを多く図り、入所者個々のニーズや家庭環境をケアプランに反映することで、入所者が安心して過ごせるサービス提供に努めました。
 - (2) 入所者が楽しみにしているおやつ作り、運動会等の施設内イベントや、花見や初詣等、季節に応じた外出企画を行い、楽しい時間を過ごせるように支援しました。また、外出支援では、家族と一緒に出かけること、入所者だけでなく家族からの喜びの声も聞かれました。
 - (3) 嚥下困難な入所者にミールラウンドを通じて、一人ひとりにあった食事環境や食事形態を検討し、安心して安全な食事を提供しました。また、バイキングやランチ会等の食事行事では旬の食材を使用したメニューとすることで、季節を楽しむことができる食事を提供しました。
 - (4) 事故防止委員会で事故統計データを活用した検証を行い、他のユニットと情報共有図ることで再発防止に取り組むことができました。また、医療安全委員会では、嘱託医と連携してマニュアルの見直しや特定行為業務の確認等、医療的ケアについて検証し見直しを行いました。
 - (5) 介護技術や認知症介護についてのスキルアップ研修等、さまざまな外部研修へ積極的に参加し、介護力向上に努めました。また、施設内研修では愛知県看護協会と連携して開催した看取り介護の研修をはじめ、多くの学びの場を設けることで施設全体の介護力向上を図りました。
 - (6) 感染・褥瘡委員会を中心に、マニュアルの見直しを行い周知することで感染症対策の標準化を図りました。また、新型コロナウイルス感染症では、最新の情報収集を行い職員に発信し、対応策を検討することで発生防止に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域住民の方を招いて、介護予防や健康増進等をテーマに福祉カフェをボランティアと協働で開催し、地域福祉の増進に努めました。また、地域のサロンへ出向き、住民の方に向けて介護や高齢者施設についての講話を行う等、福祉や介護に関する啓発活動を行いました。
 - (2) 介護福祉士や社会福祉士等を目指す学生の実習を受入れるとともに、高校生ボランティアや職場体験生等を受け入れる等、次世代を担う福祉人材の育成につなげました。
 - (3) 入所者の日常生活の様子や施設の活動状況を、福祉会だよりやフェイスブックを通じて、家族、ボランティア、地域住民に紹介することで、透明性の高い施設づくりに努めました。
 - (4) 地域と連携を図りながら、介護放棄等の理由により自宅で介護を受けることができない環境にある高齢者を受入れることで、セーフティネットの役割を果たすことができました。

令和元年度清洲の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 19.2名（前年度 18.8名）
 - (2) 稼働率 95.9%（前年度 94.1%）
 - (3) 平均介護度 2.92（前年度 3.00）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 52回（お祭り、保育園児来訪、運動会等）
 - (2) 食事関係 23回（ランチ会、バイキング、出張寿司等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 53回 延べ人数92名
 - (2) 内部研修 14回（感染症予防、褥瘡予防、認知症ケア等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 119回（感染対策委員会、リーダー会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 4回（臨時感染対策会議、臨時ケース検討会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新規の面接やサービス担当者会議はもとより、送迎時や居宅介護支援事業所訪問時に利用者についての情報交換を家族、ケアマネジャーと密に行うことで、個々のニーズに合ったサービス提供に努めました。
 - (2) カラオケ大会や豆まき等の施設内行事や季節に合わせた創作活動を行い、楽しくメリハリのある生活を送ることができました。また、機能訓練を兼ねた地域各所への外出企画や器具を使った運動等を実施し、心身機能の維持、活性化を図りました。
 - (3) 利用者と職員が協働で希望の献立による昼食作りを行い、食を通じた満足度向上に努めました。また、バイキングやランチ会等の食事行事では旬の食材を使用したメニューとすることで、季節を楽しむことができる食事を提供しました。
 - (4) 事故防止委員会で事故統計データを活用した検証を行い、他のユニットと情報共有図ることで再発防止に取り組むことができました。また、医療安全委員会では、嘱託医と連携してマニュアルの見直しや特定行為業務の確認等、医療的ケアについて検証し見直しを行いました。
 - (5) 介護技術や認知症介護についてのスキルアップ研修等、さまざまな外部研修へ積極的に参加し、介護力向上に努めました。また、施設内研修では認知症ケアをはじめ、多くの学びの場を設けることで施設全体の介護力向上を図りました。
 - (6) 感染・褥瘡委員会を中心に、マニュアルの見直しを行い周知することで感染症対策の標準化を図りました。また、新型コロナウイルス感染症では、最新の情報収集を行い職員に発信し、対応策を検討することで発生防止に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域住民の方を招いて、介護予防や健康増進等をテーマに福祉カフェをボランティアと協働で開催し、地域福祉の増進に努めました。また、地域のサロンへ出向き、住民の方に向けて介護や高齢者施設についての講話を行う等、福祉や介護に関する啓発活動を行いました。
 - (2) 介護福祉士や社会福祉士等を目指す学生の実習を受入れるとともに、高校生ボランティアや職場体験生等を受け入れる等、次世代を担う福祉人材の育成につなげました。
 - (3) 利用者の日常生活の様子や施設の活動状況を、福祉会だよりやフェイスブックを通じて、家族、ボランティア、地域住民に紹介することで、透明性の高い施設づくりに努めました。
 - (4) 地域と連携を図りながら、介護放棄等の理由により自宅で介護を受けることができない環境にある高齢者を受入れることで、セーフティネットの役割を果たすことができました。

令和元年度特別養護老人ホーム平安の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員96名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 94.0名 | (前年度 94.7名) |
| (2) 稼働率 | 98.0% | (前年度 98.6%) |
| (3) 平均介護度 | 3.94 | (前年度 3.88) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 行事関係 | 26回 | (夏祭り、出張回転すし、家族交流会等) |
| (2) 外出支援 | 39回 | (喫茶こもれび、清洲城、清須ボランティア祭り等) |
| (3) 食事関係 | 45回 | (昼食バイキング、モーニング、松花堂弁当等) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 42回 | 延べ人数64名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (事故防止、感染症予防、ユニットケアについて等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 112回 | (運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 4回 | (臨時事故防止員会、臨時感染症対策委員会) |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 入所者個々の趣味や日課が継続して行えるように、定期的に開催するカンファレンスにて適切な支援方法を施設サービス計画書に反映し、笑顔のあふれる安心した生活ができるようサービス提供に取り組みました。また、感染防止のための面会制限時には、入所者、家族双方の生活風景や笑顔を見ていただけるようタブレットを用いたビデオレターの対応を継続することによって、安心感の提供に努めました。
- (2) 季節の移り変わりを感じられるよう、ユニット内を装飾しました。また、季節を肌で感じられる行事、外出を行うことにより、楽しい日常生活を過ごしていただきました。
- (3) 外出行事では、住み慣れた地域で行われるイベントやお祭りへ出向き、地域の方々と触れ合い、街並みを歩くことにより、心身の機能維持に努めました。
- (4) 事故防止委員会では、同様の事故が起こらないように再発防止策をまとめ、全職員で情報共有することにより、入所者が安心、安全に生活できるように努めました。
- (5) 毎月開催しているバイキングでは、四季折々の旬の食材を使つての提供、また、二十四節気になんだ五感で感じていただけるよう工夫を凝らした食事の提供、出張回転すしを実施することにより、メリハリのある生活を送っていただけるよう努めました。
- (6) 施設内研修では、さらなる知識の習得に努めました。外部研修では、専門職としての知識や技術を習得し実践することにより、入所者が安心して生活できるサービス提供に努めました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 夏祭りや介護の日では、多くの地域住民に参加していただき、施設運営の理解促進につなげることができました。また、季節ごとに開催される地域のイベントにも足を運び、地域住民と触れ合う機会を設けました。
- (2) 介護福祉士、管理栄養士の実習生、社会福祉奉仕体験の高校教員や小学校教員を受け入れることにより、地域貢献または次世代の人材育成を行うことができました。
- (3) ボランティア活動後に喫茶コーナーや会議室を活用していただき、情報交換の場として提供することができました。また、その場で積極的に交流することにより、信頼関係の構築に努めました。
- (4) フェイスブックを通じて、地域のボランティア等が参加した施設行事や入所者の日常生活の活動状況を掲載して広く周知することができました。
- (5) 風水害や震災時にも入所者が継続して生活できるよう、防災訓練を実施して、防災意識の高揚に努めました。また、冬季の感染症対策の見直しを行い、安心して生活できるように努めました。

令和元年度平安の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 28.4名（前年度 28.5名）
 - (2) 稼働率 94.5%（前年度 94.9%）
 - (3) 平均介護度 2.98（前年度 2.99）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 26回（運動会、出張回転すし、ビアガーデン等）
 - (2) 食事関係 45回（昼食バイキング、モーニング、松花堂弁当等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 42回 延べ人数64名
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、感染症予防、ユニットケアについて等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 112回（運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 4回（臨時事故防止員会、臨時感染症対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 自宅での生活が可能に限り継続できるよう、新規受け入れの際には、生活相談員だけでなく看護師や介護員など他職種と協力し面接に行き、多くの情報収集に努めました。また、担当者会議へ参加して、サービス提供時の内容や本人の要望等も伝えて、情報共有を図ることにより、より良いサービスの提供に努めました。
 - (2) 季節の移り変わりを感じられるよう、ユニット内を装飾しました。また、季節を肌で感じられる行事、外出を行うことにより、楽しい日常生活を過ごしていただきました。
 - (3) 四季の移り変わりが感じられるよう、住み慣れた地域で行われるイベントやお祭りへ出向き、地域の方々と触れ合うことにより、心身の機能維持や認知機能の予防に努めることができました。
 - (4) 事故防止委員会では、同様の事故が起こらないように再発防止策をまとめ、全職員で情報共有することにより、利用者が安心、安全に生活できるように努めました。
 - (5) 毎月開催しているバイキングでは、四季折々の旬の食材を使っでの提供、また、二十四節気にちなんだ五感で感じていただけるよう工夫を凝らした食事の提供、出張回転すしを実施することにより、メリハリのある生活を送っていただけるよう努めました。
 - (6) 施設内研修では、さらなる知識の習得に努めました。外部研修では、専門職としての知識や技術を習得し、実践することにより、利用者が安心して生活できるサービス提供に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 夏祭りや介護の日では、多くの地域住民に参加していただき、施設運営の理解促進につなげることができました。また、季節ごとに開催される地域のイベントにも足を運び、地域住民と触れ合う機会を設けました。
 - (2) 介護福祉士、管理栄養士の実習生、社会福祉奉仕体験の高校教員や小学校教員を受け入れることにより、地域貢献または次世代の人材育成を行うことができました。
 - (3) ボランティア活動後に喫茶コーナーや会議室を活用していただき、情報交換の場として提供することができました。また、その場で積極的に交流することにより、信頼関係の構築に努めました。
 - (4) フェイスブックを通じて、地域のボランティア等が参加した施設行事や利用者の日常生活の活動状況を掲載して広く周知することができました。
 - (5) 風水害や震災時にも利用者が継続して生活できるよう、防災訓練を実施して、防災意識の高揚に努めました。また、冬季の感染症対策の見直しを行い、安心して生活できるように努めました。

令和元年度老人デイサービスセンター平安の里事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 29.2名（前年度 27.0名）
 - (2) 稼働率 97.4%（前年度 90.0%）
 - (3) 平均介護度 1.91（前年度 1.87）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 22回（保育園児訪問、合同運動会、出張回転すし等）
 - (2) 食事関係 13回（昼食バイキング、松花堂弁当、おやつバイキング等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 12回 延べ人数12名
 - (2) 内部研修 4回（食中毒予防、認知症について、事故防止・身体拘束廃止等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 各種会議・委員会 48回（運営連絡会議、デイサービス会議、衛生委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（臨時感染症対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 利用者の意欲向上につながるよう、利用時の状況や会話の中で気づいた要望等を取り入れた通所介護計画書を作成し、自立心が向上できるような支援に努めました。また、デイサービス会議で、サービスの統一を図るために情報共有を行い、質の高いサービスの提供に努めました。
 - (2) 身体状況に合わせた機能訓練のプログラムを実施して評価を行い、上下肢筋力の維持向上に努めました。また、心身のリフレッシュを兼ねて屋上庭園の散歩を実施しました。
 - (3) 利用日に継続して行える個別レクリエーションの実施や、風船バレー大会など集団レクリエーションでは、チームとしての絆が生まれ、一体感を感じることができるとの取り組みを行いました。
 - (4) 利用者の身体状況の変化や危険予知を行い、職種間で連携することにより、事故防止に努めました。また、事故発生時は速やかに事故報告書を作成して職員間で情報共有を図り、デイサービス会議内でも検討して、再発防止に努めました。
 - (5) サービス担当者会議に出席して、利用中の様子を明確にお伝えし、利用者本人に合ったサービスを紹介することで、多くの新規利用者の獲得し、稼働率向上につなげました。
 - (6) 日々の送迎では安全運転に心掛け、事故のない利用者送迎をすることができました。また、危険個所については事前に運転手が確認を行い事故防止に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 介護福祉士、管理栄養士の実習生、社会福祉奉仕体験の高校教員や小学校教員を受け入れて、地域貢献及び次世代の人材育成を行うことができました。
 - (2) 福祉会だより、フェイスブック、月間パンフレットに利用中の様子やデイサービスでの活動を発信することで、家族、ケアマネジャー、地域の方々にデイサービスの役割を理解していただけるよう努めました。
 - (3) ボランティア担当者が来設日の打ち合わせを事前に行い、企画書を作成して次回の活動をスムーズに遂行できるように努めました。また、行事实施後は、喫茶コーナーを活用していただき、情報交換の場として提供し、話し合った課題を検討し、報告書へ挙げて次回の活動につなげました。
 - (4) 保険者、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所との連携を図りながら地域で生活する要介護者の情報共有を行い、継続的に利用していただくことにより、利用者、家族が心身とも穏やかに、安心して在宅生活ができるよう努めました。

令和元年度西春日井福祉会居宅介護支援事業所事業報告書

事業運営

1 ケアプラン作成状況			
(1) 作成数	2, 639名	(前年度	2, 675名)
(2) 予防委託数	639名	(前年度	702名)
(3) 平均介護度	1.80	(前年度	2.10)
2 相談受付状況			
(1) 全体	91名	(前年度	107名)
(2) 地区別			
ア 清須市	45名	(前年度	53名)
イ 北名古屋市	36名	(前年度	46名)
ウ 豊山町	2名	(前年度	4名)
エ その他	8名	(前年度	4名)
3 新規契約・契約終了数			
(1) 新規契約名数	67名	(前年度	77名)
(2) 契約終了名数	68名	(前年度	75名)
4 認定調査請求数	165名	(前年度	251名)
5 職員研修			
(1) 外部研修	75回	(前年度	68回)
(2) 内部研修	48回	(前年度	52回)
(3) 各種会議	36回	(前年度	38回)

重点取組

- 福祉サービスの提供に関する取組
 - 利用者の自己決定を尊重し自立した日常生活が送れるよう、地域のサービスを紹介しました。また、特定の事業所に偏ることがないよう公平中立な対応を行いました。
 - サービス計画の作成にあたり、介護タクシーや配食サービス等介護保険以外のサービスを提案し、安心して地域で過ごせるよう支援しました。
 - 職員各々の業務の効率化を図るため、サービス自己評価表を用いて自身の業務を見直す機会を持ち、自己研鑽に努めました。
 - 研修計画を作成し、レインボーネット等からの情報を得て、職員全員が積極的に外部研修に参加しました。内部研修は、職員各々がテーマに添い、事例検討や困難事例をもとに疑問点や課題を出し合い、知識の向上を図りました。
 - 定例会議を毎週開催し、地域の情報や医療介護に関連した情報を共有しました。利用者の状態に応じて家族に新たな提案をすることができ、相談業務に生かすことができました。
 - 定例会議前に開催するチーム会議は、チーム毎に利用者の状況を報告し共有することで、担当ケアマネ以外の職員も相談対応し、継続的に支援することができました。
 - 事業所内の職務分担業務について、主担当と副担当で協力し合い、業務の効率化を図りました。
- 地域社会と共生するための取組
 - 行政機関や地域包括支援センターおよび他サービス事業者とは、常に連携を深め意見交換する中で、より良い関係性を築くことができました。
 - 市町や地域包括支援センターが主催する研修に積極的に参加し、地域連携を深めました。
 - 主治医とは日頃から連携を図り、入院時には病院のソーシャルワーカーと連携を取り合い、自宅に戻っても安心して生活できるよう環境整備も行い、退院支援の協力ができました。
 - 災害時に迅速な対応ができるよう、連絡体制のマニュアルを再度確認しました。利用者や家族が不安なく生活できるよう、市町が取り組む情報を伝え、避難場所なども一緒に確認しました。

令和元年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（施設入所）事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員50名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 49.9名（前年度 48.7名）
 - (2) 稼働率 99.8%（前年度 97.4%）
 - (3) 平均障害支援区分 5.20（前年度 5.11）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 15回（夏祭り、クリスマス会、食事会等）
 - (2) 外出支援 109回（合同外出、ユニット個別外出、買い物等）
 - (3) 食事関係 50回（行事食、ご当地メニュー）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 62回 延べ人数74名
 - (2) 内部研修 32回（新人研修、支援研修、嘱託研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 262回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（入所主任者会議、感染症対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 利用者の人権を尊重し、安心・安全なサービスを提供するため、人権委員会を設置し、呼称の徹底や率先して良い支援をする人権グッドマンを実施し、全体に周知しました。全職員を対象に障害者虐待に関する内容の研修を実施し、意識の向上を図りました。
 - (2) 健康委員会及び感染症対策委員会を設置し、利用者の健康状態の把握や職員の感染症に対する意識の向上を図りました。新型コロナウイルスについても全体に周知し、感染予防につなげました。
 - (3) 楽しみのある豊かな生活づくりのため、合同外出委員会を設置し、1泊旅行や外出を計画的に実施し、一人ひとりの希望に沿った外出支援となるよう努めました。
 - (4) 安心安全な環境づくりのため防災・環境委員会を設置し、毎月環境整備を行い、設備の点検や補修を実施しました。また、災害時における業務継続計画を作成しました。
 - (5) 楽しみのある豊かな食生活を送るため、ご当地メニューや行事メニューを取り入れ、季節感のあるバラエティに富んだ献立を工夫しました。
 - (6) 実践力のある職員を育成するため、外部研修では発達障害者支援研修や自閉症を学ぶ研修等へ計画的に派遣し、内部研修では新人研修や支援研修等を実施しました。
 - (7) 計画的な地域移行を進めていくため、グループホーム開設準備ワーキンググループを設置し、整備や運営、活動内容等を検討しました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域の理解と支援に感謝し、地域との交流を目的とした記念祭を開催する予定で準備していましたが、台風の影響で中止となりました。
 - (2) 社会参加を進めるため、地域のスーパーや喫茶店、美容院等に出かけました。朝のラジオ体操へも参加し、地域の人と関りを深める活動にも参加しました。
 - (3) 地域の施設理解を深めるため、広報紙やフェイスブック等を活用し、施設の情報を積極的に発信しました。
 - (4) 地域の障害理解を深めるため、中学生の職場体験学習を受け入れました。また、夏休みには福祉体験教室を、障害者週間には福祉映画の上映会を開催して、施設と障害者への理解を深めてもらいました。
 - (5) 園芸や手芸班には、個人ボランティアが定期的に来所されています。身障部門では、歌や演奏、踊りなど多数のグループが来られ、利用者が楽しめる機会になりました。
 - (6) 地域のイベントや西春日井地域福祉の店への出店など、地域住民に対して障害理解を深めてもらう活動を行いました。喫茶ギャラリーこもればでは、作品展示や各種リーフレットを利用して障害者および高齢者福祉の情報発信を行いました。

令和元年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（短期入所）事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員10名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 8.8名（前年度 8.6名）
 - (2) 稼働率 88.1%（前年度 86.0%）
 - (3) 平均障害支援区分 4.78（前年度 5.06）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 15回（夏祭り、クリスマス会、食事会等）
 - (2) 食事関係 50回（行事食、ご当地メニュー）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 62回 延べ人数74名
 - (2) 内部研修 32回（新人研修、支援研修、嘱託研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 262回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（入所主任者会議、感染症対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 家族と離れる不安を軽減するために、できるだけ同じユニットや居室を用意し、一人ひとりに合った生活環境の提供に努めました。新規利用者の契約や緊急入所に対応し、稼働目標を大幅に上回りました。
 - (2) 個々の希望に応じて、ユニットの余暇活動に参加していただき、楽しく過ごすことができました。一部の利用者は、普段通っている事業所へ通所することで、情緒の安定につなげることができました。
 - (3) 相談支援センターと連携して、サービスを必要としている地域の人に情報を届けることで、新規の利用者が少しずつ増加しました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 安心して地域で生活することができるように、家族の病気や虐待等の緊急利用は、優先して受け入れました。利用希望が集中し利用調整が難しい場合は、サービス提供区域外の利用希望をお断りすることがありました。
 - (2) 相談支援センターや市町福祉課、社会福祉協議会等の関係機関と連携することで、速やかに緊急入所や虐待ケースを受け入れ、家族の負担軽減や本人保護に努めました。懸念ケースについては、サービス担当者会議に参加し検討することで、グループホームへの移行につながることができました。

事業運営

- 1 利用状況（定員68名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 65.2名（前年度 65.7名）
 - (2) 稼働率 95.8%（前年度 96.7%）
 - (3) 平均障害支援区分 5.16（前年度 4.46）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 15回（夏祭り、クリスマス会、食事会等）
 - (2) 食事関係 50回（行事食、ご当地メニュー）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 62回 延べ人数74名
 - (2) 内部研修 32回（新人研修、支援研修、嘱託研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 262回（運営会議、ユニット会議、日中活動調整会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（入所主任者会議、感染症対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 計画相談と連動し、本人のニーズに沿った個別支援計画を作成し、モニタリングと評価を行い、概ね本人のニーズに沿った支援ができました。社会参加を進めるため近隣への外出や買い物に積極的に出かけました。作業活動の納品や材料の購入に出かけ、活動意欲を高められるよう努めました。
 - (2) 喫茶ギャラリーこもれびの活動には、昨年度より1名増え6名が参加しています。来店者から声をかけていただくなどの交流を通して、一層の活動意欲が引き出されました。
 - (3) 実践力のある職員を育成するため、外部研修では発達障害者支援研修や自閉症を学ぶ研修等へ計画的に派遣し、内部研修では新人研修や支援研修等を実施しました。
 - (4) 特別支援学校の実習生を受け入れ、次年度の利用につなげることができました。希望のあった利用者の利用回数を増やしましたが、新規利用者が少なく、稼働目標を達成できませんでした。
 - (5) 健康委員会及び感染症対策委員会を設置し、利用者の健康状態の把握や職員の感染症に対する意識の向上を図りました。新型コロナウイルスについても全体に周知し、感染予防につなげました。
 - (6) 安心安全な環境づくりのため防災・環境委員会を設置し、毎月環境整備を行い設備の点検や補修を実施しました。また、災害時における業務継続計画を作成しました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域の理解と支援に感謝し、地域との交流を目的とした記念祭を開催する予定で準備していましたが、台風の影響で中止となりました。
 - (2) 社会参加を進めるため、地域のスーパーや喫茶店、美容院等に出かけました。朝のラジオ体操へも参加し、地域の人と関りを深める活動にも参加しました。
 - (3) 地域の施設理解を深めるため、広報紙やフェイスブック等を活用し、様々な視点で積極的に発信しました。
 - (4) 地域の障害理解を深めるため、中学生の職場体験学習を受け入れました。また、夏休みには福祉体験教室を、障害者週間には福祉映画の上映会を開催して、施設と障害者への理解を深めてもらいました。
 - (5) 園芸や手芸班には、個人ボランティアが定期的に来所されています。身障部門では、歌や演奏、踊りなど多数のグループが来られ、利用者が楽しめる機会になりました。
 - (6) 地域のイベントや西春日井地域福祉の店への出店など、地域住民に対して障害理解を深めてもらう活動を行いました。喫茶ギャラリーこもれびでは、作品展示や各種リーフレットを利用して障害者および高齢者福祉の情報発信を行いました。

事業運営

1 利用状況（定員20名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）

- | | | | |
|------------|------|------|-------|
| (1) 平均利用者数 | 0.1名 | （前年度 | 0.1名） |
| (2) 稼働率 | 0.7% | （前年度 | 0.6%） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者一人ひとりに適した創作的活動や生産的活動を行いました。土曜日に利用されている定期利用者には、外出や入浴支援など、本人の希望に沿った活動を提供しました。
- (2) 離職者等に対する支援については、対象者がありませんでした。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 生活介護を利用できない人を対象に、本人のニーズに沿った活動の場を提供し、生活に楽しみと潤いを持つことができました。
- (2) 支援困難なケースはありませんでしたが、引き続き地域関係者との連携を図ります。

令和元年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（日中一時支援）事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員5名 月～土営業、日曜、年末年始6日を除く）

- | | | | |
|------------|-------|------|--------|
| (1) 平均利用者数 | 2.9名 | (前年度 | 2.9名) |
| (2) 稼働率 | 57.3% | (前年度 | 59.0%) |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 一時的な見守りだけでなく、外出支援や創作活動等の余暇活動を行い、生活意欲の向上を図りました。また、平日に短期入所と併用する利用者も見え、本人のニーズに合ったグループで活動しました。
- (2) 長期休暇（春休み、夏休み、冬休み）中、在宅障害児の日中活動の場所を日中一時支援事業で提供し、地域生活の充実を図ることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 平日他事業所を利用している利用者を土曜日に一時的に受け入れ、家族の介護負担の軽減を図ることができました。
- (2) 複数のサービスを利用しているケースについて、地域関係機関と連携を図りながら、サービスを利用する機会を設けました。

令和元年度相談支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

(1) ケアプラン	4件	(前年度	3件)
(2) 障害支援区分認定調査	24件	(前年度	40件)
(3) 電話相談	587件	(前年度	373件)
(4) 来所相談	351件	(前年度	367件)
(5) 訪問相談	494件	(前年度	406件)
(6) 計画相談	192件	(前年度	218件)
総計	1,652件	(前年度	1,407件)

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意思及び人格を尊重し、常に利用者や家族の立場に立って、公正中立な相談支援を行うよう努め、充実した生活を送ることができるように支援しました。市町福祉課と連携し、サービス等利用計画を作成して、モニタリング等で検証しました。
- (2) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局として、運営会議や精神障害者支援の交流会、児童部会、訪問系事業所部会、日中活動系事業所説明会等を開催し、地域関係者の連携を深めることができました。また、相談支援部会に参加し、情報交換や講師を招いて「障害のある不登校児の支援」、「医療的ケアが必要な重症児者の勉強会」、「地域移行の勉強会」を行い、他事業所との連携を深めるとともに、相談支援専門員のスキルアップを図ることができました。令和2年2月末から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営会議、相談支援部会等は中止しました。
- (3) 愛知県障害者相談支援体制整備事業を受託し、地域アドバイザーとして、関係機関の会議等で助言し、圏域の障害者支援協議会及び相談支援体制等の活性化を図ることができました。
- (4) 地域の親グループ活動に参加し、助言を行い、親グループの活動の活性化を図ることができました。
「障害者支援を考えよう勉強会」を開催し、地域関係者の障害の理解を図るとともに、連携を深める場となりました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域交流の場として交流ホールや多目的室を、障害児者親グループや地域住民の活動に利用していただき、交流の場を提供することができました。令和2年2月末から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、交流ホール等の貸し出しは中止しました。
- (2) 障害者情報を発信するため、情報紙「杜の風だより」と支援協議会だより「地域の風・絆」を毎月発行し、地域関係者に配布し、地域の状況や新しい情報を得ることができたと好評でした。
- (3) 西春日井地域福祉の店や喫茶ギャラリーこもれびで展示販売するだけでなく、情報紙を置くなど、相談支援を含めた情報を発信することができました。

令和元年度訪問介護支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

○居宅介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 182名（前年度 169名）
- (2) 延利用時間 1,196.5時間（前年度 1,085.5時間）

○行動援護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 70名（前年度 87名）
- (2) 延利用時間 518.5時間（前年度 493.5時間）

○重度訪問介護事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 26名（前年度 32名）
- (2) 延利用時間 506.5時間（前年度 459.0時間）

○移動支援事業

1 利用状況（年末年始を除く通年営業）

- (1) 利用者数 617名（前年度 663名）
- (2) 延利用時間 5,232.5時間（前年度 6,126.5時間）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意向を聴取し、了解を得ながら、ニーズに即した計画を作成し、概ね計画のとおり実施することができました。
- (2) 男性ヘルパーの新規採用はなく、十分に要望に応えることができませんでした。
- (3) 利用者や家族から、サービスについて直接聞き取り調査を行い、満足度を把握し、支援に活かすことができました。令和2年3月から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、不要不急の外出支援は中止しました。
- (4) ヘルパー会議や地域部門会議でケース検討を行ったり、所内のインシデント研修や行動観察研修に参加し、ヘルパーのスキルアップを図りました。また、「障害者支援を考えよう勉強会」にヘルパーも参加し、障害の理解を深めました。また、障害者支援協議会の訪問系事業所部会に参加し、他の事業所と交流を図りました。
- (5) 複数のサービスを利用しているケースでは、サービス担当者会議に出席し、地域関係者との連携を図りました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 訪問介護支援センターに関する情報を情報誌等で発信する機会はありませんでした。